

「ほんまもん」を結わい、京都の次の一手を描く

# 堀場 厚 会頭 インタビュー

2025年1月の就任から1年余りが経過し、同年11月から2期目に入った堀場厚会頭。2期目のキャッチフレーズである「ほんまもんを結わい」に込めた思いや、

京都が直面する課題、そして今後3年間で取り組むべき方向性について、お話を伺いました。

## 成果を出すための

### 2期目の体制づくり

この3年の任期の中で、しっかりと目に見える成果を出す必要があります。ただ、商工会議所の活動は非常に幅広く、会頭ひとりですべてに対応することはできません。そこで、8名の副会頭にもこれまで以上に関与いただき、積極的に活動していく体制を作りたいと考えています。現在の京都商工会議所は、副会頭のみなさんの活動が以前に増して非常に活発であり、議論を深めるうえで理想的な体制になってきていると感じています。

## 永遠に続くものこそ

### 「ほんまもん」

「ほんまもん」とは、地道な努力の積み重ねから生まれる、他の追随を許さない唯一無二の価値のことです。最大のポイントは、永続的であるかどうかということ。単に本物かどうかを議論することにはあまり意味がありません。将来にわたり永く続いていくものが「ほんまもん」なのです。特に近年の変化の激しい時代には、何を拠り所として判断し、行動するかが問われます。その際、自身の中に「ほんまもん」の軸があれば、決してブレることは



ありません。軸の定義は個人や企業  
によってさまざまですが、大切  
なのはその根底にあるスピリットで  
あると私は考えています。京都に息  
づく数多の「ほんまもん」を結び合わ  
せることで、さらに大きな価値を生み  
出すことができると思っています。

## 未来を形にする 新たなプラットフォーム 「京都未来戦略会議」

京都は歴史的にもアカデミア、  
行政、経済界が非常に近い関係に  
あります。だからこそこの関係を  
より強固に組み合わせて「結わう」  
ことをぜひ実現したいと考えてい  
ます。特別な何かを新しく始める  
だけではなく、それぞれが持つ特  
徴や強みを活かして「結わう」こ  
とで、京都全体をさらにパワー  
アップできると確信しています。

京都の経済4団体（京都商工会  
議所、一般社団法人京都経営者協  
会、一般社団法人京都経済同友会、  
公益社団法人京都工業会）をはじ

め、行政もアカデミアも、それぞれ  
が将来に対する危機感を持って、さ  
まざまな活動に懸命に取り組んで  
います。しかし、それらがシンクロし  
ていなければ、せっかくの努力が異  
なる方向に向かつてしまい、十分な  
成果に結びつきません。ですから、  
行動を起こす前に、まずは相互理  
解を深める場が必要と考え、「京  
都未来戦略会議」を立ち上げまし  
た。スタートしたばかりですが、教  
育やインフラをテーマに、初回から  
非常に充実した議論を交わしてお  
り、確かな手応えを感じています。

京都商工会議所の「にぎわい・  
まちづくり推進委員会」や「次世  
代交通システム検討委員会」、「人  
財確保委員会」とも連携し、副会  
頭や各委員長に役割を担っていた  
しながら、議論を具体的な行  
動へと落とし込んでいきます。

## 真のグローバル人材を育む 教育と京都の価値

教育分野において、私は小中学  
校段階でのローカライズされた  
教育が極めて重要であると考え  
ています。私自身の経験からも、  
グローバル社会で活躍し、世界  
から認められるためには、海外に  
迎合するのではなく、自分の生ま  
れ育った国や地域、その文化に  
誇りを持つことが不可欠である  
と感じています。それらをないが  
しろにする人が、海外で認められ  
ることは絶対にありません。京都  
にはそうしたスピリットが今も  
色濃く息づいており、次世代を  
担う子どもたちにもぜひ受け継い  
でほしいと願っています。

このスピリットは京都の経済界

にも表れており、多くの企業が  
本社を東京に移さず、京都に置き  
続けている理由のひとつにもなっ  
ています。ただ売ればよい、儲か  
ればよい、という価値観だけでは  
ありません。京都にはビジネスに  
必要な機能が一通り揃い、さま  
ざまな業界のグローバルな情報  
が垣根を越えていち早く集まる、  
良い意味での「箱庭」のような環  
境があります。上場企業だけでは  
なく、中堅・中小企業にとっても  
京都を拠点とするメリットは大  
きく、その価値を多くの方々に気  
付けてほしいと思っています。





## 将来を見据えて データに基づいた インフラ整備を

インフラ整備も重要な課題です。北陸新幹線については、東海道新幹線の代替機能を担うためにも大阪までの接続が不可欠であり、かつ京都に経済的メリットをもたらずルートでなければなりません。安全保障や観光拠点としての役割を持つ舞鶴を経由するルートの可能性も含め、論理的な議論を求めます。

また京都は、歴史的な経緯から旧市街地を中心にインフラ整備が遅れているのが実情です。インフラの充実なくして経済の向上はありません。都市の衰退を防ぎ、次世代へ街を引き継ぐ責任が我々にはあります。

LRTをはじめとした次世代交通システムの導入についても、特定の手法に決め打ちするのではなく、市民や観光客にとってのメリットや採算性を総合的に判断すべきです。日本で初めて路面電車を走らせた歴史を持つ京都だからこそ、新たな交通インフラの流れにも積極的に向き合うべきだと考えています。

その前提となるのが、具体的な数値やデータに基づいて現状を正しく捉えることです。京都商工会議所では現在、通信事業者が持つ位置情報を活用し、大学と連携して京都市内の人流調査を進めています。観光地の混雑についても、人の流れを可視化することで、課題への解像度が大きく向上します。京都人は物事を「雰囲気」

で捉える側面がありますが、これは京都の良さである半面、弱点にもなり得ます。より良い街づくりのためには、科学的データを把握し、解決策や許容範囲を丁寧に議論する姿勢は欠かせません。「まず事実を正しく捉える」習慣を身につける必要があります。

## 「京都経済ほんまもん大賞」を創設

現在、スタートアップが注目を集める一方で、地道な努力を長年積み重ねてきた中堅・中小企業は、相対的に脚光を浴びやすい状況にあるとは言えません。しかし、そうした企業が築き上げた確かな基盤こそが、京都、そして日本を支える「ほんまもん」の存在と言えます。

優れた技術や製品を持ちながらも、なかなか光が当たりにくい「匠の世界」こそ、スポットライトを当てたい―その思いから、今回新たな賞を創設しました。この

賞を通じて、真に京都らしく、本質的な価値を備えた企業を掘り起こし、経済界全体で応援していきたいと考えています。

## 商工会議所の活動への積極的な参画を期待

会員の皆様には、商工会議所の活動に主体的に参画し、現場で感じた率直な意見や提案をお寄せいただきたいと考えています。我々も幅広い意見を受け入れるオープンな姿勢を大切にしてまいります。

今後特に重要になるのは、「スピードと決断力」です。即断すべきことと、時間をかけて議論を尽くすべきことを見極め、「いつ決めるのか」という期限を定めて対応することが成果につながります。激動の時代にあっても、確固たる信念と「ほんまもん」の価値観があれば、大きくブレる心配はありません。京都の未来に向けて、今取り組むべきことを着実に実行していくことが大事だと考えています。